ベストクラス候補選定理由書

作成者：D班（江口真優，二森正人，香田太郎，須田康之，初田　隆，藤木裕一）

科目名称　教育文化の歴史（夜間クラス） （担当教員名：　平野　亮　）	
課　　程　：学部・大学院（修士・専門職）	開講時期　：　前期・後期
授業形態　：　講義・演習	授業規模　：　３０人以下
インタビュー対象教員名　平野　亮 （実施日時：　R1.7.25 16:30～17:30　；　実施場所：　総合研究棟３階「小会議室」　）	
インタビュー対象受講者名　寒川鉄平，横江貴行，渡部　峻 （実施日時：　R1.7.25 16:30～17:30　；　実施場所：　総合研究棟３階「小会議室」　）	

選定理由

この授業は、教育にかかわる文化についての講義をもとに、教育にかかわる事象の歴史的研究を行うという内容のものである。講義の内容は、「教える」「学ぶ」「大人」「子ども」等の教育にかかわるワードから展開されている。さらに講義の後半では、学生自身が自分の興味のある教育的トピックについて研究を行い、発表する。講義全体を通して、学生が教育について柔軟な思考を持つことができることを目指している。

この授業の中で評価されるべき点は３つある。１つ目は、教師―学生間の距離が近いことである。それは、物理的にも心理的にも言える。教室がさほど大きくなく、空席もほぼない状況は、自然と教師と学生の距離を縮めた。距離が近いことで、学生が教師に向けて質問しやすい環境ができたのである。さらに、学生からの質問に対し、教師はそのすべてに答えるのではなく、学生に考えさせたり調べさせたりする余地を残した答え方をしていた。これにより、学生の知りたい欲が掻き立てられていたようだ。２つ目は、後半に発表を行うという形式だ。この発表の過程で、学生がこれからの研究の進め方について学んでほしいという、教師の意図があったようだ。実際、前半の講義が研究の進め方のモデルになっており、この教師のモデルをもとに、学生が研究を行うようになっていた。現職教員の学生もストレートの学生も、大学院の２年間で行う研究について進め方がわかっていない学生が存在する。そのような学生にとって、この授業は大学院生活に役立つものとなっていたようだ。３つ目は、多くの出会いがあることだ。夜間で、神戸ハーバーランドキャンパスで開講されるという特性もあり、さまざまな学生が受講している。中には、教育とは直接関わりのなさそうな職業に従事している学生もいたようだ。昼間クラスでは関わることのできない人との出会いは、学生自身の視野・考え方の広がりにつながったようだ。また教師の講義や学生による発表を経て、モノとの出会いもあったようだ。自分の知らなかった知見や、自分がこれまで見向きもしなかった分野の講義・発表から、教育の幅広さを痛感するとともに、面白さにも気づくことができたようだ。

最後に評価すべき点は、教師と学生で授業を作り上げているという点である。ベストクラスの概念である「教師と学生が一緒になって授業を作り上げる」を体現したクラスであると、インタビューから感じることができた。評価されるべき３つの点と、教師と学生の熱意が相互に影響し合い、授業にかかわる者全員で授業を作り上げることができているという部分を評価し、ベストクラス候補に選定した。